

パリとレイクキャビックで考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

6月8日の日曜日に、秋葉原でとんでもない事件が起こりました。余り激しいゲームは長時間やらないほうがいいと思います。人を殺したりするようなゲームを何年間も、長時間やり続けていると、人を殺すことが何ともなくなってしまう、人間の精神に悪い影響を与える場合があります。人間の精神に悪い影響を与える可能性の高い過激なゲームはできるだけ避けるべきと、私は考えます。

お子様をお持ちの方は、あまり過激な殺人ゲームを子どもにやらせることは避けていただきたい。また、大人になっても、子どものときと同じようなゲームをやっていると、頭がちょっとへんてこりんになってしまって、現実の世の中とゲームの世界がごちゃごちゃになってしまって、とんでもない事件に発展することがあります。くれぐれもゲームをやる方は量を減らすとか、やらないとか、たばこと同じように、殺人ゲームとかは世の中からなくなったほうがいいのではないかと私は思います。

2. パリとレイクキャビックで考える

今月は、たまたま6月2日と3日と4日に、フランスのパリで開かれました OECD(国際開発協力機構)主催の2008年度の OECD フォーラムがありまして、そこに参加してきました。終わってから、アイスランドに行かせていただいて、首都のレイクキャビックでやはり OECD の別の会議に参加してきましたので、今日は、フランスの話と、それからアイスランドの話をさせていただきます。

(1)フランスで開かれた OECD の会議は、その横で OECD の閣僚会議が開かれていました。今度、日本の洞爺湖で開かれる G8 サミットの話やどんなふうにサミットをもっていくのかについて、閣僚たちがサミットの内容について話し合っていました。その内容を、マスコミをはじめ市民にも開放したものです。1000人くらいの会議でした。そこに私は参加させていただきましたので、その話をさせていただきます。

(2)G8 サミット直前の OECD の会議でありますので、持続的な発展のために気候変動について対策をしなければならないことが主要テーマでした。今度の洞爺湖サミットでだいぶ議論になると思います。その話もだいぶしていましたが、もう一つのテーマは、これから高齢化を迎える社会において、どんなふうに社会自体を持続可能にするかについてでした。このテーマについてだいぶ話し合われていました。「より長く生きよう、より長く働こう(Living longer、Working longer)」というスローガンが叫ばれました。ただ、長く生きて、長く働けばいいだけでなく、その質が大事。「More than Job」ということも叫ばれました。ただ単なる仕事だけではなくて、スキルに基づいた仕事が大変。今の世の中は知識社会ですので、スキル、つまり能力に基づいて経

済が成り立っているからです。では、どんなふうに能力を身に付けるのかが議論されました。ただ単なる仕事ではなくて、高い能力を身に付けた上で仕事を展開しなければいけない。そのための能力をどう身に付けたらよいのか。

デンマークの代表の報告はとてもためになりました。デンマークは失業率が 1.8 %とヨーロッパで一番低い国の一つになりました。その理由は、学校を出た社会人のための教育体系、つまり仕事を身に付けるための教育を、国の最重要目標としてやっているからです。その結果、デンマークでは失業率が 1.8 %までになった。これから先もデンマークは、このような教育を推し進めたいと話していました。この国家としてのやる気、積極性が素晴らしいと私は思います。おそらくこれが正しいかもしれませんが、「長く生きて、長く働こう」、ただ長く生きて、長く働こうというのではなくて、その中味ですね。仕事の能力を身に付けながら働こうということが、ヨーロッパで強調されていました。

(3)6月5日、6日には、アイスランドの首都レイクキャビックにあるアイスランド大学で開かれた、OECDの大学経営についての会議に参加させていただきました。そこでのテーマは、「大学の規模は国際競争力に影響を与えるか、どんな影響を与えるのか」ということでした。「Does the Size Matter ?(規模は問題となるか)」でした。会議の目的は、大学の国際競争力をどんなふうにも高めるのかでした。32万人しか人口のいないアイスランドでは、1人当たりのGDPが世界で一番のルクセンブルクほどではありませんが、世界でも上から何番目というように非常に高い1人当たりのGDPが得られています。日本のだいたい1.8倍くらいですね。1人当たり非常に高い所得が得られています。国の成長と国民の福祉の上で大切なキーワードは、とにかく「勉強」、「教育」でした。国は極めて小さいが、アイスランド大学は世界で一番競争力のある大学を目指すということで、OECDの大学の国際競争力に関する会議自体を誘致したわけです。皆さん同じように言っていましたが、大学であるからには、規模はある一定の程度は必要である。しかしながら、大学としての競争力の源泉は独自性である。大学としての独自性をもって、これから先の世の中をリードするような問題を解決するような人材を養成したい。大学がこれからどんなふうに残るのか。それには世界の競争の中で勝ち残らなくてはならない。そのためには問題解決、地域や世界の問題を解決できるような研究者と同時に、高度職業人、プロフェッショナル、スキルドレイバー(Skilled Labor)、能力の高い人たちを大量に養成することが一番大事だ。地域社会との連携を強めながら生涯にわたって学び続けられるような知の拠点、世界や地域の発展における大学の役割が大切である。このような熱い議論が展開されていました。

3. おわりに

パリ同様、レイクキャビックはすばらしいところです。こじんまりはしているが、ものすごくきれいなところです。cute city、キュートな街と言えます。東京ディズニーランドよりも美しい街並みが展開しています。ぜひ、皆さんも行ってみてください。暖流が流れていますので、冬はそんなに寒くなくてマイナス3 くらい。ただ夏は6月でも16 くらいで涼しいですが、過ごしやすいところでした。

- 8月5日加筆 -